

見守りロボット「見守りライフ」導入事例

社会福祉法人キングス・ガーデン宮城様

入所者の離床を事前に知らせるロボットの活用で、
介護事故の安全対策とスタッフの負担軽減を両立社会福祉法人キングス・ガーデン宮城
事務長

佐藤 由美子 氏

社会福祉法人キングス・ガーデン宮城
特別養護老人ホーム キングス・タウン
介護福祉士

渡邊 大輔 氏

課題と成果

課題背景

- ＜経営者＞ ・入所者がベッドから離床する際に生じる、転倒・転落などのリスクを最小限に抑制したい
- ＜介護スタッフ＞ ・介護スタッフ1名で10名以上の入所者の支援を行わなければならない場合もあるため、見回り業務にかかる負担を軽減したい
- ・専用の通知端末などを追加で使用する面倒やわずらわしさは避けたい
- ＜入所者・家族＞ ・安全対策は重要だが、一方で入所者のプライバシー保護にも努めてほしい

成果

- ＜経営者＞ ・離床以前の「動き出し」「起き上がり」「端座位」などのタイミングでスタッフへ通知できるため、より早く駆けつけ、転倒・転落の回避が可能に
- ＜介護スタッフ＞ ・見守り確認をロボットに依存できるため、個々の入所者に100%集中して支援でき、介護スタッフにかかる精神的・肉体的な負担が大幅に軽減
- ・既存のナースコールPHSと連携するため、新たな端末を持ち歩くことなく利用可能
- ＜入所者・家族＞ ・個室の扉を開け放ったり、カメラで入所者を常時監視するような手段を使うことなく、入所者のプライバシー保護と安全対策を両立

導入の背景や課題

入所者の安全確保に欠かせない見守り業務を、
限られたスタッフで万全かつ効率的に行う方法を模索

社会福祉法人キングス・ガーデン宮城様は、宮城県気仙沼市において高齢者や要介護者のための各種施設の運営や在宅介護支援、デイサービス、訪問看護・介護といった幅広い福祉サービスを提供しています。利用者の健康状況やニーズに応じた5つの施設を運営され、賑わいある気仙沼市の街中に設立された『キングス・タウン』は、その中でも常時介護が必要（要介護認定3～5）な方向けの特別養護老人ホームです。

「いま現在、当施設には50名の方が長期入所されています。入所者10名ずつを1ユニットとし、一つの家で生活するようなユニットケアの形を取っており、各ユニットには共同で使用する食堂・リビング・お風呂と10名分の個室が備わります」と施設の特長を介護福祉士の渡邊 大輔氏は語ります。キングス・タウンの介護スタッフの数は看護師や相談員を除いて25名ほど。入所者10名に対し

4～5名の専属スタッフが24時間、交代で業務を行うため、時間帯によっては1人で10名以上の入所者や複数のユニットを横断的に担当しなければならない場合もあるといえます。

「要介護度が軽度な方なら定時の巡視でも済みますが、特別養護老人ホームには常時注意を向け、頻繁に見守らなければならない方もいます。もし見守りが十分でないと、ベッドから独りで起き上がろうとして転倒したり、認知症の方では我々の予想外の行動をとるリスクなどが生じ、安全が保てません」（渡邊氏）。

このように介護事故の抑止に不可欠な見守り業務を、限られたスタッフで効率的に行うことはキングス・ガーデン宮城様にとって課題となっていました。その解決案として浮上したのが、介護現場の労働環境改善や人手不足の緩和につながる施策として、現在、国や自治体が普及に向けて

社 名：社会福祉法人キングス・ガーデン宮城
所 在 地：〒988-0203

宮城県気仙沼市岩月星谷64-3

設 立：1995年8月

従 業 員 数：134名(2018年5月現在)

事 業 内 容：ケアハウス・グループホーム・特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス・障害者支援施設等を運営し訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・デイサービス・ケアプランセンターなど充実した福祉サービスを提供

U R L：http://www.kingsgarden.or.jp



積極的に取り組んでいる介護ロボットの存在でした。
 「宮城県から直接、介護ロボット導入支援事業の

お話をいただきました。同時にNECネットイノベーションからは『見守りライフ』の提案を受け、ロボットに見守りを任せることでスタッフの負担

軽減になるなら導入価値は高いと感じ、導入を検討しました」と、事務長の佐藤 由美子氏は振り返ります。

選択のポイント

介護スタッフに支持されやすく、場所を取らず、入所者のプライバシーと安全が同時に守れる点を評価

『見守りライフ』の導入にあたっては、NECネットイノベーションのデモ機を使い、施設内のベッドで実用性や機能性をスタッフの方々で検証されました。その時の印象について渡邊氏は「当施設では以前、端座位になって足を乗せると音が鳴るシステムを使っていましたが、到着するまでのタイムラグもあるので、どうしても対応が遅くなります。ベッドの上の体の動きや重心の傾きを検知するシステムは初めて目にしたので、こ

れが実現できるなら便利だと率直に感じました」と語ります。
 また、異なる仕組みを用いた見守りロボットも比較検討されましたが、「たとえば、部屋に監視用のカメラを設置するものや体温センサーなどで動きを検知するものなど、いろいろな提案があったものの、やはり一番の懸念はそれでは個人のプライバシーが守れないということ。その点、このシステムなら扉を閉めたままでも入居

者の動きが把握できるのでプライバシーも安全も、同時に保つことができます」と佐藤氏は選択の理由を述べられます。
 この他にも、空間に圧迫感を与えるような大がかりなシステムではない点や、既存のナースコールPHSとも容易に連携し、専用の通知用端末などを追加で持ち歩かずに使えることも評価されたとのことでした。

導入後の成果

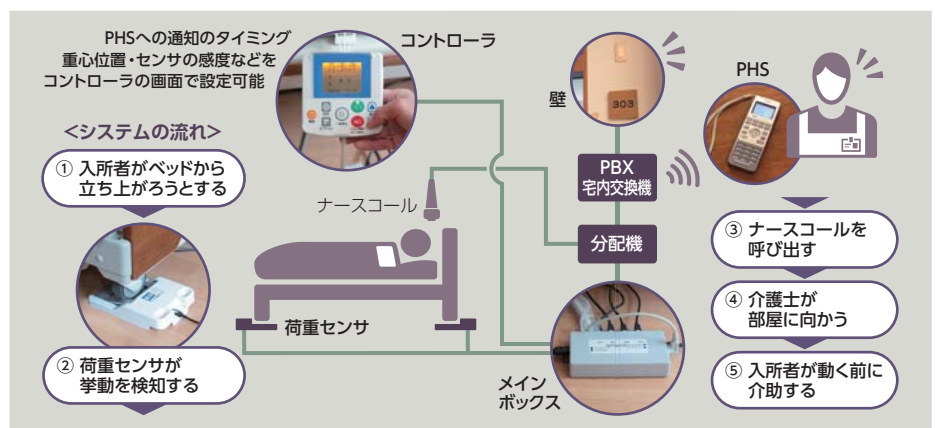
より早い駆けつけが可能になり、入所者の安全対策が強化。
 介護スタッフにかかる見守りの負荷やストレスの軽減にも貢献

現在、キングス・タウンには特別養護老人ホーム向けに固定式ベッド用×3セット、ショートステイ向けにキャスター式ベッド用×3セットの計6セットの『見守りライフ』が導入され、ほぼフル稼働の状態です。

介護スタッフの方々現場で実感されているメリットとしてはやはり、入所者が立ち上がる前のタイミングで離床を予知できる点にあると渡邊氏は語ります。

「体動を感知した『見守りライフ』からナースコールが鳴って部屋に向かうと、まさに入所者が起き上がり、ベッドから降りようとしている瞬間であることが度々あります。このロボットがあって良かったと思える瞬間を日々、感じています。プライバシーの部分も、従来なら個室のドアを開放して、つねに監視できるような状況にしなければならなかった方でも、扉は閉めたままできちんと見守ることができています」

また、現場での使い勝手についても「扱いは誰でも簡単です。通知のタイミングや重心、センサーの感度もコントローラーの画面を見ながら直感的に設定できるので、年代を問わずに全スタッフが使いこなせています。加えて便利なのが一時



停止機能です。我々の業務には排泄介助があり、その際にはベッドの上で入所者さんを移動する必要がありますが、そのたびにシステムの電源を切らずに済みます」（渡邊氏）
 介護の現場でロボットを活用する意義に関して両氏は「介護スタッフは1人の相手と向き合いながらも、つねに並行して他のリスクのある方のことも意識しておかなければなりません。しかし、ロボットに見守りを任せれば、1人の方に100%集中して向き合うことや、見守り以外の仕事に専念することも可能になります」（渡邊氏）

「ロボットによって見守りに関する入居者のリスクを遠ざけることができれば、精神的にもいろいろとゆとりが生まれます。職員の業務上のストレスを軽減できる利点は大きいです」（佐藤氏）と、その恩恵を述べます。
 「今回の導入では補助金の申請も行いましたが、NECネットイノベーションには手続きの件で役所に何度も足を運んでもらうなど協力に感謝しています。当施設を手始めに、今後は認知症の方向けの施設などでの活用も検討しています」と佐藤氏は展望をお話されました。

お問い合わせは、下記へ

NECネットイノベーション ソリューション営業部
 〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町一丁目10番23号 (TM小田急ビル)
 TEL : 022-227-3573

●本カタログに記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
 ●このカタログの内容は改良のため予告なしに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承ください。
 ●本製品の輸出（非居住者への業務提供等を含む）に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法令等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。ご不明な場合、または輸出許可等申請手続きにあたり資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの弊社営業拠点にご相談ください。
 ●本事例の内容は、2018年6月時点のものです。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



環境にやさしい植物油インクを使用しています。